

森本 あんり著

# アメリカ・キリスト教史

理念によって建てられた国の軌跡

9・11以降、アメリカ合衆国のキリスト教について、関心が高まっている。ブッシュ大統領は、信仰によってアル中から救われた「生まれかわり」のクリスチャンを自認し、「神よアメリカを祝福したまえ」を連発して復讐を誓い、「ムラカ」に先制攻撃」を任せた。ブッシュを支持するのは、ここ4半世紀ほどの間に政治的発言力を高めてきたファンダメンタリストや「宗教右派」である。アメリカの問題の核心には、キリスト教があるらしい。その熱狂的な愛国心と自己正当化は「神によって裁可を受けている」という確信」と直結しているようだから——日本における関心の背後にある認識をまとめるとおおよそこのようになる。

そこから一歩でも踏み出して、アメリカ合衆国とキリスト教の関係を歴史の深みから理解してみようとする時、本書は絶

好の導き手となる。日本では、「宗教」が特殊な領域として隔離され、一般の歴史叙述から排除される傾向がある。一方で、現状の一面がジャーナリスティックに伝えられる。アメリカのキリスト教が、不気味に映るのは、一部そのためである。だからといって、決して

「宗教」が特殊な領域として隔離され、一般の歴史叙述から排除される傾向がある。一方で、現状の一面がジャーナリスティックに伝えられる。アメリカのキリスト教が、不気味に映るのは、一部そのためである。だからといって、決して

## 正確でバランスの取れた通史

専門的な知識に裏付けられた洞察

小 檜 山 ル イ

アメリカキリスト教史  
森本あんり



46判・182頁・1785円  
新教出版社  
4-400-22117-2

に掲げられた重要事項の年表とともに、4.6判サイズで約1800頁というコンパクトで、わかりやすい叙述の中に見事にまとめられている。一般の読者にも近づき易い。

だからといって、決してありきたりではない。著者の神学者、アメリカ研究者としての専門的な知識に裏付けられた洞察や情報が随所に盛り込まれ、このテーマをある程度知る者にも参考になる。たとえば、17世紀に2時間の緻密な聖書講

る。本書は、正確で、バラエティに富んだ植民地時代の取れた、アメリカ合衆国におけるキリスト教の歴史を、一般のアメリカ史との関連性において語ろうとする。それが、魅力的な社会構成原理は、それゆえに排他的である。新規参

る。本書は、正確で、バラエティに富んだ植民地時代の取れた、アメリカ合衆国におけるキリスト教の歴史を、一般のアメリカ史との関連性において語ろうとする。それが、魅力的な社会構成原理は、それゆえに排他的である。新規参

入には、もとの構成員の同意が必要である——といった指摘は、今の合衆国の不寛容の問題の根深さを示唆する。あるいは、ハーヴァード大学に関する記述。この大学は牧師養成を目的に創られたが、教科内容はベラルーアーツを主体とした。その理由はピューリタンの教会の牧師はまず、説教者でなければならぬからだという。教会の日曜日には、午前中に2時間、午後におけるキリスト教の働きと指摘する。現代の関心からすると、20世紀への頁の割り当てが少ないのが残念だが、歴史的理解の提示という目的ゆえの選択であろう。(こひやま・るい氏「東京女子大学教授・アメリカ研究専攻」)

入には、もとの構成員の同意が必要である——といった指摘は、今の合衆国の不寛容の問題の根深さを示唆する。あるいは、ハーヴァード大学に関する記述。この大学は牧師養成を目的に創られたが、教科内容はベラルーアーツを主体とした。その理由はピューリタンの教会の牧師はまず、説教者でなければならぬからだという。教会の日曜日には、午前中に2時間、午後におけるキリスト教の働きと指摘する。現代の関心からすると、20世紀への頁の割り当てが少ないのが残念だが、歴史的理解の提示という目的ゆえの選択であろう。(こひやま・るい氏「東京女子大学教授・アメリカ研究専攻」)

解」と「実践的な適用」で構成されていた。信仰の根本である聖書と日常生活を雄弁に結びつけるために、牧師は一般教養を要したというわけである。アメリカの高等教育がこのような必要を土台に発展してきたことを改めて興味をかき立てられる。

本書の構成の概略は以下の通り。まず、植民地時代は、カトリックの大陸進出から始めるところに特色がある。18世紀については、大覚醒と続く独立革命、建国期の諸教会の新体制が採り上げられる。19世紀は、第2次大覚醒に始まるキリスト教の拡大のプロセスが叙述の軸となっている。20世紀以降については、大戦間期における不寛容の拡大、第2次世界大戦後の多様化する価値観の問題などが語られる。副題にある通り、著者は各歴史的モメントにおけるキリスト教の働きの光と影——功罪——を淡々と指摘する。現代の関心からすると、20世紀への頁の割り当てが少ないのが残念だが、歴史的理解の提示という目的ゆえの選択であろう。(こひやま・るい氏「東京女子大学教授・アメリカ研究専攻」)

★もりもと・あんり氏は国際基督教大学教授・神学・宗教学専攻。東京神学大学院、プリンストン神学大学院卒。著書に「使徒信条」「ジョンサン・エドワーズ研究」「現代に語りかけるキリスト教」など。(一九五六(昭和31)年生。